

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ (そよかぜユニット)		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	令和4年2月2日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは入居者さんの意思(想い)を大切にしています。「木かげに入居して本当に良かった」と、入居者さんやご家族さんに思ってもらえるホームを目指しています。また地域に木かげを積極的にアピールしています。
私たちの理念は「笑う門には福来る」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「笑う門には福来る」を全スタッフで共有し実践している。入居者さんとも、合言葉のように「笑う門には」「福来る」と言い合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との対面でのやり取りは控えている。公民館や生涯学習センターさんからの誘いで、ZOOMなどインターネットを活用したボランティア活動(発表会)に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせを中心に、地域の方の相談にのったり、散歩中の方に挨拶程度に話しかけたり、地域住民の方々とは日々関わりを持っている(他愛のない世間話が多いです)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍と言うことで、対面での会議は控え、各推進委員の方々より、電話や文書で頂いたご意見・ご要望に対する回答や、木かげからのお知らせ等を、文書にてお配りしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が行っている。疑問・質問など、快くお答えいただいている。市役所では、緑区担当の木村さんと言う方にとってもお世話になっており、何かと気にかけてくださる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の様々なシーンにて、気が付いたり気になったことを、管理者や先輩スタッフなどが、その都度教えている。身体拘束に当たることをしないようにしている。常に勉強会も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の中で、虐待をしてはいけない理由などを伝え、「自分がされたいいやなことはしない」を合言葉に、虐待防止に努めている。常に勉強会もしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その方の「権利を守ること」の大切さを、常に意識し出来る限り守れるようにしている。成年後見人制度についてもプリント物を掲示し、目にする機会を増やしている。管理者がご家族の相談にのることもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、管理者2名により重要事項・契約書の説明を行い、納得を得られた後に、入居をしていただいている。木かげで出来ること・出来ない事をお伝えし、理解・納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当スタッフからの定期的なご連絡の際、ご要望を聞くようにしている。面会が出来ない状態になっているので、ラインやメールなどにて、お知らせなどをし、意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者にて定期的な会議やメールのやり取りを行い、その際、職員からの要望などを管理者が、代表に伝えている。代表は聞き入れてくれ、職員からの要望はほとんど反映される。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、給与金額など近隣の施設と同じか上回るように心がけてくれている。賞与等は、スタッフの能力に合わせ査定の為、やりがいをもち精進してくれているスタッフがいる。パートさんなどの労働時間は、様々な時間帯を取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内などは、管理室に掲示してくれ、スタッフが研修に申し込めるようにしてくれている。休み希望も優先してくれている。今年も、新型コロナウイルスの影響で研修などには参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も、コロナの影響により、対面では行っていない。早くコロナが収束し、相互訪問等が行えるようになってほしい。管理者は他施設との交流(電話やライン等)を図り、情報をスタッフに流してくれている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族さんから様々な情報を頂き、スタッフ間で話し合いを行っている。入居後は、日々のさり気ない会話の中から、「今、ご本人が困っていることを聞けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が行っている。問い合わせの段階から、ご家族の様々な相談にのっている。入居後も暫くの間は、毎日生活状況のご連絡をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が行っている。ご家族のご要望を伺い、必要であろうサービスの提案をしたり、入居前に使えるサービスのアドバイスなどもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の様々なシーンで、その方の出来る事を、スタッフと一緒に行っていただいている。家族のような友達のような、たまに友達感覚が、過ぎてしまう場合もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年も、コロナの影響で外出が出来ていない。ホーム内でのイベント行事にも参加はしていただいている。面会は、コロナ感染の状況により、玄関先や窓越しで行っている。ご家族との絆も大事にできていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には、直接電話をしていただいている。賀状のやり取りもしていただいている。コロナ禍なので、行き来は行っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士、馴染みの関係が出来ているの。他の入居者さんの心配や、お手伝いを気にかけて下る方もいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後何年もたっている方も、ご家族が気にして下さり、お電話を下さったり、お土産を持ってきてくださる。他の入居者さんとも馴染みの関係が保てている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を尊重している。こちら側の要求に拒否があるような場合、時間を置き、なるべくご本人のタイミングに合わせられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前になるべく早い段階で、ご家族から情報を頂き、把握に努めている。今までの暮らしとかけ離れすぎないように考え、支援できていると思う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さんのご様子や状態などをiPadの介護アプリ内に記録し、個人の状態や能力(今できること)の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、ご家族・ご本人からご要望を伺い、ZOOM会議を開いている。話し合いにて支援に反映できるようにしている。今年は、入居者さんの会議参加はなかった。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき支援を実施できるように心がけているが、職員間の共有がうまくいかないことが時々ある。まずは、実践を確実なものとし、介護計画の見直しに結び付けられるようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして出来る限りのサービスを心掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や生涯学習センターの方の協力にて、ZOOMは発表会を視聴することができた。今年もコロナの影響にて、訪問のボランティアさんは来ていない管理者が定期的に連絡を取り合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を利用している。365日・24時間の対応で安心している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師は現在休職中にて、ラインや電話にて相談にのってもらっている。現在利用中の訪問看護さんは、入居者さんの状態や、こちらの要望を主治医に伝えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療連携シートを活用し、病院側に情報を流せるようにしている。また、入院中だけではなく退院支援など、病棟や地域連携室と管理者がやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約や説明の際、木かげの看取りについての説明・確認を管理者口頭で行っている。終末になったころに、再確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットをもとに、話し合いを行っている。ヒヤリハットから事故に移行しないよう注意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む、年2回の訓練を行っている。コロナ禍にて、消防署員や近隣住民参加の訓練は行っていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さん一人一人に合った言語や話し方をしている。話しかけの際は、敬いの気持ちを忘れないよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意見や希望を言える環境づくりに努めている。自己表現が難しい方にもなるべく皆さんが答えられるよう、表情などをみてこちら側で判断させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や朝の掃除などは日課としているが、それ以外は自由に過ごしていただいている。入居者さん本位で過ごして頂けていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣時の衣類選びは、ご自分でしていただいている。迷ってしまうような場合や、季節感そぐわぬい時などは、さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝のお掃除は可能な限りスタッフと共に行っている。食器洗いや洗濯ほし・洗濯物たたみ等、出来る方にはしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やミキサー食など、その方のレベルに合わせて提供している。ご本人のペースで食べきるまで食べていただいている。食欲がないときなど、時間を空けての提供や補助食品や好物などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。歯ブラシや、うがい、その方によっては、吸引歯ブラシの使用をし、残渣物がないよう口腔ケアを行っている。月一回の訪問歯科にて、専門的に口腔ケアを行っている。毎日入れ歯洗浄剤使用。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご家族のご要望にてベッド上でおむつ交換の方以外は、皆さんトイレにて排泄を行っている。ご自分の意志でトイレに行ける方は、行きたい時に行っていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の内服について医師と相談し、状態に合わせ支援している。便秘予防として、食事にオリゴ糖をとったり、おやつにバナナなどの繊維質の物を取り入れている。冷え対策もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番など、その日の状況に合わせて決めている。入りたい方には、率先して入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で休んで頂いている。寝る時間はご本人にお任せしている。就寝前に足浴を実施している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフはまあまあ把握できている。薬剤師さんが定期的に来てくれるので、いろいろ聞くことができている。薬の効能や起こりうる副作用などについても、知ることができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お肉や魚など繊維質なものを好まれない方には、栄養分を考え同じようなものを代替えとしている。日常会話の中から、入居者さんの食べたい物等を伺い、たまにメニュー変更をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年もコロナ禍にて、外出はできていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金の持ち込みは行っていない。外出時などには、少額だが、ご本人にお渡しし、使用してもらっている。また、入居時にご家族と相談をし、無くなってしまっても構わないと言われる方のみ、お金の所持をしていただいている。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の会話の中で、ご家族や大切な方の話話題にふれ、「たまには電話してみますか？」などと声掛けをし、電話をしていただいている。ご本人から電話を希望される場合も、電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ同士の私語をしてしまう事がたまにあるので、配慮が足りないと思う。皆さん、日中はリビングで過ごされるので、居心地が悪くないように思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、自由に居室に行っていただけいている。現状では、気の合う仲間(グループ)が、出来ているので、楽しく過ごせていると思う。時々、行き違いになりそうな場合は、早めにスタッフが間には入れていると思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた馴染みの物は少ない。入居の際「今まで使用していたもの」の持ち込みをお願いしているが、なかなかご家族的に難しい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除機をコードレスに買い替え、危険が少なく済むように配慮。浴室や廊下など、手すりを利用できるよう、多めに設置している。食後の下膳など、安全を確保しながらご本人に行っていたいしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと